

牧山市民の森でビニール破片でつくられた小鳥の巣を発見

平成 27 年 4 月 19 日 (日) に、「2015 年・春の『牧山市民の森・カタクリ』自然観察会」が行われました。私は、始めて行事に参加しました。

第 1 駐車場から案内役の自称縄文人佐藤亮さんの先達のもと、植物を観察しながら高度を上げてあじさいの道を通り、カタクリの群落が広がる尾根頂上部の芝生の丘の東屋で一休みして、道に戻りかけました。

その時、参加者の女性二人が道端に茂るアオキの頭上約 3m 付近に蜂の巣があると叫びました。灰白色の小鳥の巣のようでした。すかさず縄文人佐藤氏は、持参の自作伸縮自在名竿(山菜取り用)の先端の曲がり針金で引っ掛けてその固体を採取しました。

それは、アオキの二股の枝の間に作られた(写真—1)、たぶん「ヤマガラ?」の巣のようでした。大きさと形状は、長径 7 から 8cm、最大深さ 4cm の半楕円球状です(写真—2、3)。よくみると、驚いたことには、巣の表面はビニールひも状の破片が巣の外殻を驚くほど絶妙に形作り、巣の内側には小枝の破片が骨組みとなっています(写真—4)。

よくカラスは、電柱に針金のハンガーを巣の土台として使っているのが知られていますが、小鳥までが、巣作りに人工物、それも、あとから気づいたのですが、そのものは、簡易土のう袋のポリプロピレンの破片(写真—5)だったとは。小鳥が賢くて巣作りの効率化を図ったのか、または、人間が材料となるものを、捨てた結果こうなったのかと思うと、参加者の皆さんが「ココまで人の手が及んでいるのか」と複雑な気持ちになったのが正直なところでした。

どんな名前の小鳥が巣作りして残した跡なのか、知りたくなりました。

ごみ問題は、私たちの周りでどんどん進化しています。人間だけでなく実際には小動物の自然な状況や生態環境までも変えているのかと考えると、本当に複雑な思いにかられました。



写真—1



写真—2



写真—3

写真—5



写真—4







